（6） イチジク 〔果樹類＞落葉果樹＞いちじく〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘　要
病害全般	［耕種的防除］	・圃場全体の排水改善を図り、なるべく高いうねに植栽する。また、ハウス栽培を行う。 ・株元にマルチや敷き藁を行い、水滴による病原菌のはね上がりを防ぐ。 ・通風、採光の改善を図る。 ・発病部位（主に葉、果実、時には株全体）はすみやかに除去し、園外で焼却か土中深く埋める。 ・せん定によって切り取った枝や落葉も、園外で粉砕、焼却または土中深く埋める。
炭疽病	生育期	・果実だけに発病する。最初は暗褐色の小斑点が形成され、内部が淡褐色で周辺が濃褐色のへこんだ病斑に進展する。病徴が進むと鮭肉色の粘液を分泌する。 ・薬剤による防除法は確立していないため、耕種的防除を徹底する。
疫病	6～9月	・地際から根に発病し株全体を枯死させる「立枯れタイプ」、および葉、果実、新梢に発病する「樹上タイプ」がある。立枯れタイプは、株枯病との判別がつきにくい。 ・疫病による立枯れでは、地下部の表皮が溶けるように腐敗し、軟化する。 ・土壌中の病原菌が雨滴やかん水ではね上がり感染することから、露地栽培で発生が多い。
黒かび病	8～9月	・酵母菌腐敗病と初期症状が似ているが、酵母菌腐敗病では発酵臭がある。 ・発病後の防除では、効果が上がりにくい。収穫開始までに、薬剤を予防散布する。
	［耕種的防除］	・ハウス栽培でも発生するので、晴天時には換気して湿度低下を図る。
そうか病	新梢伸長期	・葉・新梢・果実に発病し、降雨によって拡散するため、露地栽培で5～6月に降雨が多いと発生しやすい。 ・「蓬莱柿」、「カドタ」は発生しやすく、「ドーフィン」は発病が少ない。 ・新梢伸長初期および最下段の着果確認時が、薬剤散布の重点時期である。
さび病	7～8月	・葉だけに発病し、葉裏に黄褐色や赤褐色の微細な病斑を形成する。 ・著しい発病により落葉し、果実肥大に悪影響を及ぼす。 ・盛夏期に、2週間間隔で薬剤を散布する。
	［耕種的防除］	・ハウス栽培でも発生するので、晴天時には換気して湿度低下を図る。
株枯病	定植時及び生育期	・最初は地際部の表皮が濃褐色のあざ症状になり、ひび割れが観察される。 ・上記症状は上部へ拡大し、主幹や主枝の内部が褐変腐敗し、株が枯死する。 ・土壌に病原菌が残存しやすく、改植しても高率で再発する。 ・定植時および5～10月に、月1回ずつ株元に薬剤を灌注する。
	［耕種的防除］	・保菌した挿し穂や苗木が感染源となるので、苗木や穂木は未発病地に由来するものを用いる。
切り口および傷口のゆ合促進	剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後	・切り口に適量のトップジンMペーストを塗布する。
ショウジョウバエ類（酵母腐敗病）	果実成熟期	・ショウジョウバエ等の昆虫が酵母腐敗病を媒介する主な原因となるので、ショウジョウバエに対して薬剤を散布する。
	［酵母腐敗病の耕種的防除］	・過熟果がショウジョウバエを誘引するので、適期収穫を行う。

病害虫名	防除時期	摘　要
アザミウマ類	生育期（7月末まで）	・除草に合わせて、薬剤を散布する。 ・圃場内に粘着板を設置し、発生状況を把握する。 ・収穫初期(低節位の着果)に被害が多く、中～高節位では被害は減少する。
	［耕種的防除］	・光の乱反射により飛来量が減少し、被害が軽減されるので、地面に反射シート等を敷設する。 ・雑草が繁殖場所になるので、圃場内外の除草を徹底する。
カイガラムシ類（幼虫）	幼虫発生期	・6月上～中旬が、防除適期である。 ・休眠期防除参照
カミキリムシ類	4～7月	・噴射式缶入り殺虫剤を用い、食入孔にノズルを差し込んで薬剤を噴射する。
	［耕種的防除］	・成虫は、見つけ次第捕殺する。幼虫は、食入痕に針金を差し込み、刺殺する。 ・ハウス栽培により、害虫の侵入を防ぐことができる。
キボシカミキリ幼虫	産卵期～幼虫喰入期	・生物農薬を使用する。生物農薬は、昆虫に寄生する性質を持ったセンチュウを製剤化した天敵農薬であり、効果を高めるため晴天時の散布は避け、曇天または少雨時に散布するのが望ましい。
クワカミキリ	4～7月	・噴射式缶入り殺虫剤を用い、食入孔にノズルを差し込んで薬剤を噴射する。
ネコブセンチュウ	5月または収穫終了後	・樹勢低下がみられたら、根こぶの有無を確認する。
ハダニ類	5月～9月	・白い紙で葉裏をこすった時に付く赤い汁の有無で、発生を診断する。 ・前年多発した園では、休眠期防除とともに展葉後なるべく早い時期に防除する。 ・高密度に発生すると各薬剤とも効果を発揮しにくくなるので、発生初期にかけ残しのないよう丁寧に散布する。 ・多発園では、5～6日おきに系統の異なる薬剤で2～3回防除する。 ・休眠期防除参照

イチジク【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）					
									さび病	そうか病	疫病	株枯病	黒かび病	切り口及び傷口のゆ合促進
いちじく	Zﾎﾞﾙﾄﾞｰ	銅水和剤	M1		-	-	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布			1000倍			
いちじく	ｱﾐｽﾀｰ10ﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ｱｿﾞｷｼｽﾄﾛﾋﾞﾝ水和剤	11		収穫前日まで	3回以内	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布	1000倍	1000倍	1000倍			
いちじく	ｵﾝﾘｰﾜﾝﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ﾃﾌﾞｺﾅｿﾞｰﾙ水和剤	3		生育期 但し、収穫前日まで	3回以内	5～10ﾘｯﾄﾙ/樹	灌注				2000倍		
いちじく	ｺｻｲﾄﾞ3000	銅水和剤	M1		-	-	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布			1000倍			
いちじく	ﾀﾞｺﾆｰﾙ1000	TPN水和剤	M5		収穫前日まで	2回以内	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布	2000倍		2000倍		2000倍	
いちじく	ﾃﾞﾗﾝﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ｼﾞﾁｱﾉﾝ水和剤	M9	劇	収穫75日前まで	3回以内	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布		1000倍				
いちじく	ﾄｯﾌﾟｼﾞﾝMﾍﾟｰｽﾄ	ﾁｵﾌｧﾈｰﾄﾒﾁﾙﾍﾟｰｽﾄ剤	1		【A】	3回以内		塗布						原液
いちじく	ﾄｯﾌﾟｼﾞﾝM水和剤	ﾁｵﾌｧﾈｰﾄﾒﾁﾙ水和剤	1		収穫7日前まで	5回以内	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布		1000～1500倍			1000～1500倍	
					収穫前日まで	6回以内	1～10ﾘｯﾄﾙ/株	灌注				500倍		
いちじく	ﾄﾘﾌﾙﾐﾝ水和剤	ﾄﾘﾌﾙﾐｿﾞｰﾙ水和剤	3		収穫前日まで	3回以内	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布	2000倍	2000倍				
					収穫前日まで	4回以内	1～10ﾘｯﾄﾙ/株	灌注				500倍		
いちじく	ﾍﾞﾝﾚｰﾄ水和剤	ﾍﾞﾉﾐﾙ水和剤	1		収穫30日前まで	5回以内	1～10ﾘｯﾄﾙ/樹	株元灌注				1000倍		
いちじく	ﾗﾘｰ水和剤	ﾐｸﾛﾌﾞﾀﾆﾙ水和剤	3		収穫前日まで	4回以内	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布	2000倍					
いちじく	ﾗﾝﾏﾝﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ｼｱｿﾞﾌｧﾐﾄﾞ水和剤	21		収穫前日まで	3回以内	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布			2000倍			

使用時期：【A】剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

イチジク【殺虫剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）									
									ｱｻﾞﾐｳﾏ類	ｶｲｶﾞﾗﾑｼ類	ｶｲｶﾞﾗﾑｼ類幼虫	ｶﾐｷﾘﾑｼ類	ｷﾎﾞｼｶﾐｷﾘ	ｷﾎﾞｼｶﾐｷﾘ幼虫	ｸﾜｶﾐｷﾘ	ｼｮｳｼﾞｮｳﾊﾞｴ類	ﾈｺﾌﾞｾﾝﾁｭｳ	ﾊﾀﾞﾆ類
いちじく	ｱｰﾃﾞﾝﾄ水和剤	ｱｸﾘﾅﾄﾘﾝ水和剤	3A		収穫前日まで	2回以内	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布								1000倍		1000倍
いちじく	ｱﾃﾞｨｵﾝ乳剤	ﾍﾟﾙﾒﾄﾘﾝ乳剤	3A		収穫前日まで	2回以内	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布	2000倍									
いちじく	ｱﾌﾟﾛｰﾄﾞﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ﾌﾞﾌﾟﾛﾌｪｼﾞﾝ水和剤	16		収穫14日前まで	2回以内	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布			1000倍							
いちじく	ｵﾙﾄﾗﾝ水和剤	ｱｾﾌｪｰﾄ水和剤	1B		収穫45日前まで	1回	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布	2000倍									
いちじく	ｶﾞｯﾄｻｲﾄﾞS	MEP乳剤	1B		【Z】	3回以内	-	【a】				原液						
いちじく	ｺﾛﾏｲﾄ水和剤	ﾐﾙﾍﾞﾒｸﾁﾝ水和剤	6		収穫前日まで	1回	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布										2000倍
いちじく	ｼﾞｪｲｴｰｽ水溶剤	ｱｾﾌｪｰﾄ水溶剤	1B		収穫45日前まで	1回	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布	2000倍									
いちじく	ｽｶｳﾄﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ﾄﾗﾛﾒﾄﾘﾝ水和剤	3A	劇	収穫前日まで	3回以内	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布	2000倍									
いちじく	ﾀﾞﾆｺﾝｸﾞﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ﾋﾟﾌﾙﾌﾞﾐﾄﾞ水和剤	25B		収穫前日まで	1回	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布										2000倍
いちじく	ﾀﾞﾆｻﾗﾊﾞﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ｼﾌﾙﾒﾄﾌｪﾝ水和剤	25A		収穫前日まで	2回以内	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布										1000～2000倍
いちじく	ﾀﾞﾆﾄﾛﾝﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ﾌｪﾝﾋﾟﾛｷｼﾒｰﾄ水和剤	21A		収穫3日前まで	1回	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布										1000～2000倍
いちじく	ﾀﾞﾝﾄﾂ水溶剤	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝ水溶剤	4A		収穫3日前まで	3回以内	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布	2000～4000倍			2000倍						
いちじく	ﾃﾞｨｱﾅWDG	ｽﾋﾟﾈﾄﾗﾑ水和剤	5		収穫前日まで	2回以内	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布	5000倍							10000倍		
いちじく	ﾆｯｿﾗﾝ水和剤	ﾍｷｼﾁｱｿﾞｸｽ水和剤	10A		収穫前日まで	2回以内	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布										2000～3000倍
いちじく	ﾈﾏﾄﾘﾝｴｰｽ粒剤	ﾎｽﾁｱｾﾞｰﾄ粒剤	1B		収穫60日前まで	1回		樹冠下処理									20kg/10a	
いちじく	ﾊﾞｲｵｾｰﾌ	ｽﾀｲﾅｰﾈﾏ ｶｰﾎﾟｶﾌﾟｻｴ剤	「-（生）」		産卵期～幼虫喰入期	-	2.5ﾘｯﾄﾙ	【b】						2500万頭（約10g）				
いちじく	ﾊﾞﾛｯｸﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ｴﾄｷｻｿﾞｰﾙ水和剤	10B		収穫前日まで	1回	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布										2000倍
いちじく	ﾏｲﾄｺｰﾈﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ﾋﾞﾌｪﾅｾﾞｰﾄ水和剤	20D		収穫前日まで	1回	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布										1000倍
いちじく	ﾓｽﾋﾟﾗﾝ顆粒水溶剤	ｱｾﾀﾐﾌﾟﾘﾄﾞ水溶剤	4A	劇	収穫前日まで	3回以内	200～700ﾘｯﾄﾙ/10a	散布	2000倍	2000倍			2000倍					
いちじく	園芸用ｷﾝﾁｮｰﾙE	ﾍﾟﾙﾒﾄﾘﾝｴｱｿﾞﾙ	3A		収穫前日まで	2回以内		【c】										
果樹類	ｽﾊﾟｲｶﾙEX	ﾐﾔｺｶﾌﾞﾘﾀﾞﾆ剤	「-（生）」		発生初期	-		放飼										2.4～12mL/樹
果樹類(施設栽培)	ｽﾊﾟｲﾃﾞｯｸｽ	ﾁﾘｶﾌﾞﾘﾀﾞﾆ剤	「-（生）」		発生初期	-		放飼										100～300mL/10a
【A】	ロビンフッド	ﾌｪﾝﾌﾟﾛﾊﾟﾄﾘﾝｴｱｿﾞﾙ	3A		収穫前日まで	5回以内		【d】				原液						

作物名：【A】果樹類（かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、すもも、 うめ、おうとう、ぶどう、かき、ﾏﾝｺﾞｰを除く）

使用時期：【Z】4～7月但し収穫7日前まで

使用方法：【a】株元から結果母枝まで塗布

【b】主幹及び主枝の産卵箇所に薬液が滴るまで塗布又は散布

【c】食入部にﾉｽﾞﾙを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射

【d】樹幹・樹枝の食入孔にﾉｽﾞﾙを差し込み噴射